

平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年 月 日記入

基本目標	躍動し 魅力あふれる交流拠点都市をめざして	施策コード	36120
政策名(章)	第6章 高度情報化への対応を図ります	評価担当部	企画部
基本施策名(節名)	第1節 豊かな市民生活を実現する情報化の推進	評価担当課	企画政策課
施策名	地域情報通信基盤の整備	課長名	長沢博文

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

市民の誰もが、いつでも、どこでも容易に情報の受発信や交流ができる状態になっていることを目的とする。

2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		0	
人件費		0	
市民一人あたりの事業費	0	0	
合計	0	0	

*人件費は、一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

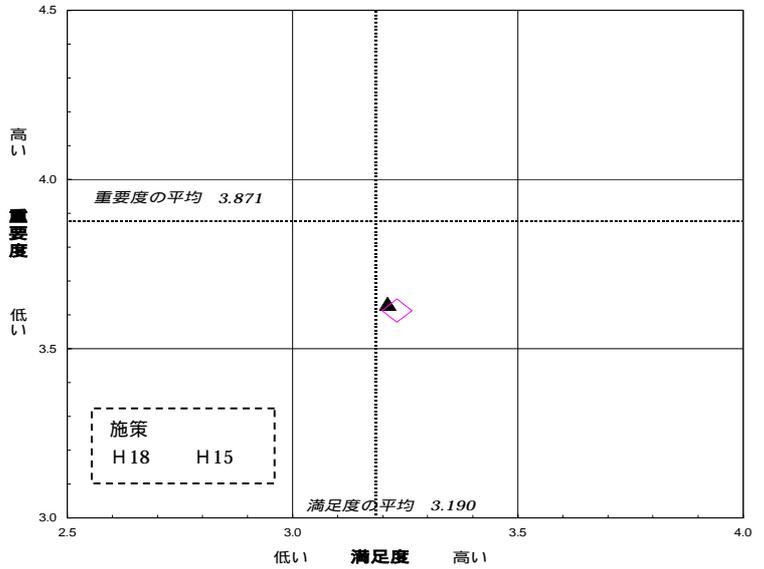
3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	必要な情報の受発信が容易であると感じている市民の割合			
指標2	ブロードバンド環境を享受できる環境にある市民の割合	(ブロードバンド環境を享受できる市民 / 全市民) × 100		
指標3				
指標4				
指標5				

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1						
達成率	#DIV/0!					
指標2						
達成率	#DIV/0!					
指標3						
達成率	#DIV/0!					
指標4						
達成率	#DIV/0!					
指標5						
達成率	#DIV/0!					

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.232で51施策の中で19番目。
 重要度は3.613で39番目である。
 改善要望度は - 0.2121で41番目である。
 年齢別にみると、満足度、重要度ともに70歳以上でもっとも高く、40歳代でもっとも低くなっている。
 前回調査と比較すると、満足度、重要度ともに施策の順位に大きな違いはみられない。
 満足度の順位では、20歳代、70歳以上で前回調査より大幅に上がり、60歳代で大幅に下がっている。
 重要度の順位では、40歳代で大幅に上がり、70歳以上で下がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4 2①	施策の達成に対する市の事業の寄与度は低い。	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	4 ②1	現在の効果を最少経費で得ているとまでは言えない。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4 ②1		
合計		5	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	1次評価 B

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	地域情報通信基盤を用いた施策・事業の展開ではなく、地域情報通信基盤の整備そのものは、市が自ら行うものとしての短期的目標が立てづらい。
解決策	地域情報通信基盤が脆弱な地域における電気通信事業者による整備を促進する実効的な手法について、検討する必要がある。

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

施策目的に適合した構成事務事業の検討を行い、その上で、成果を表す指標の再設定を行う必要がある。	2次評価 B
---	-----------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

